

「コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラム」急性期活動実習（第3回宮城 BHELP 標準コース+第1回宮城 BHELP インストラクターコース）を実施しました（2025/5/31, 6/1）

テーマ：日本災害医学会 地域保健・福祉の災害対応標準化トレーニングコース（BHELP）
場 所：東北大学災害科学国際研究所（宮城県仙台市）

2025年5月31日（土）と6月1日（日）、「コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラム」急性期活動実習、第3回宮城 BHELP 標準コースと第1回宮城 BHELP インストラクターコース/ブラッシュアップコースをそれぞれ開催しました。両日の研修に東北地方の保健医療福祉従事者（医師、看護師、リハビリ関連専門職、助産師、薬剤師、歯科衛生士、救急救命士）、行政職員（保健師、保健福祉事務、防災事務）、学校教員（養護教諭、社会教育主事）、保健医療福祉系学生ら延べ46名が受講し、全国から18名のインストラクターが講師として参加しました。佐々木宏之准教授（災害医療国際協力学分野）がコースコーディネーターとして運営に携わりました。

日本災害医学会 BHELP（Basic Health Emergency Life Support for Public）標準コースは、災害発生直後の緊急避難場所・指定避難所の設営・運営を被災者の生命、健康維持の観点からサポートできる人材を育成するためのコースです。災害時の避難者のなかには多くの傷病者、要配慮者が存在します。保健医療福祉の観点からどのようにトリアージし、サポートし、外部機関につなげればよいか、座学やグループワークを通して概念、スキルを学習できます。

6月1日（日）のインストラクターコースでは、標準コースで指導できるインストラクターを養成するため、成人学習の特徴、指導者の資質、ファシリテーションスキルといった、BHELP 以外でも活用できる人材育成方法を、座学・ロールプレイングを通して学習しました。また、BHELP 標準コース web コース向けに、Zoom 上での画面共有方法についても学習しました。

災害時の対応力向上にはそれを実践できる人材育成が不可欠です。当研究所ではこのような実践的研修会を継続して開催して参ります。



避難所内での Helping Hand をグループワークで考える



グループでの討議結果を発表する受講生



健康に配慮した避難所レイアウトを討議する



Zoom での画像共有方法、チャットの使用法を学ぶ



ロールプレイングを通じファシリテーションスキルを学ぶ



インストコースの最後に受講生と講師で記念撮影